

動物実験に関する現況調査票

大東文化大学

2026年2月

## I. 動物実験に関する組織

機関長	職名 学長	氏名 高橋 進
事務担当者	職名 研究推進室東松山分室 主査	氏名 高塚 弥
同 連絡先	TEL 0493-31-1520	同 連絡先 TEL 0493-31-1552
動物実験委員会 委員長	職名 大東文化大学 名誉教授	氏名 大城 聰 <sup>1)</sup>
同 委員	職名 スポーツ・健康科学研究科 教授 動物実験施設長	氏名 高山 成伸 <sup>3)</sup>
同 委員	職名 スポーツ・健康科学研究科 教授 実験動物管理者	氏名 蕪木 智子 <sup>2)</sup>
同 委員	職名 スポーツ・健康科学部 健康科学科 准教授	氏名 小林 幸次 <sup>1)</sup>
同 外部委員	職名 慈恵医科大学 客員教授	氏名 鈴木 政登 <sup>1)</sup>
同 外部委員	職名 リサーチコーディネーター／ファシリテーター	氏名 實川 佐智恵 <sup>3)</sup>

## ○動物実験委員会の構成内訳

- 1) 動物実験等に関して優れた識見を有する者 2名
- 2) 実験動物に関して優れた識見を有する者 1名
- 3) その他学識経験を有する者 3名

## ○2024年度動物実験委員会の開催

- 第1回 2024年 4月 23日  
 第2回 2024年 6月 18日  
 第3回 2024年 9月 17日  
 第4回 2024年 3月 18日

## II. 機関における動物実験の概要

## 1. 動物実験を行う主たる研究分野

- 医歯薬学分野                       畜産・獣医学分野  
 生物科学分野                       理工学分野  
 その他（ スポーツ科学及び健康科学分野 ）

2024年度 現況調査票

2. 年度ごとに使用・飼養した実験動物の種類と概数

動物種	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	使用数	飼養数	使用数	飼養数	使用数	飼養数	使用数	飼養数	使用数	飼養数
ラット	0	0	0	0	40	40	40	40	35	35
マウス	0	0	15	15	11	11	55	55	33	33

( 2025年 3月 30日 集計)

3. 年度ごとの承認された動物実験計画数

動物実験計画数	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	0件	2件	5件	5件	4件

総実験計画数の内 ( ) 内は継続実験

4. 年度ごとの動物実験に関する教育訓練の受講者数

教育訓練受講者数	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	0人	8人 <sup>1)</sup>	166人 <sup>2)</sup>	105人 <sup>2)</sup>	104人 <sup>2)</sup>

1) 卒研実験生、大学院生

2) 学部実験生、教職員

5. 実験動物飼養保管施設の現況

飼養保管施設（施設）の総数：	1箇所	施設の総延べ床面積*：
		<input checked="" type="checkbox"/> 300 m <sup>2</sup> 未満 <input type="checkbox"/> 300 m <sup>2</sup> 以上

\* いずれかにチェックを入れてください。

施設の名称	管理者の職・氏名	実験動物管理者の職・氏名（関連資格・経験年数）	動物種	最大飼養頭数（概数）
大東文化大学 動物実験施設 （動物飼育室・ 動物実験室）	スポーツ・健康科学 研究科及び スポーツ健康科学部 健康科学科 教授・高山成伸 博士（医学）	スポーツ・健康科学研 究科及び スポーツ・健康科学部 健康科学科 教授・蕪木智子 （博士（学術）・30年）	ラット マウス	50匹 500匹

飼養保管施設は、管理者および実験動物管理者による一体化した管理体制の下で、実験動物の飼養及び保管等を行う施設であり、一般的には動物飼育室の他、器具洗浄等の管理区域、実験処置室等を含みます。したがって、個々の動物飼育室を指すものではありませんが、全ての動物飼育室は、実験動物飼養保管施設に所属していなければなりません。一体化した管理体制による実験動物飼養保管施設であれば、同一敷地内の異なる場所にある動物飼育室を含むこともあり得ます。なお、哺乳類、鳥類、爬虫類以外の動物の飼養保管施設はこの場合の数に含まれません。

6. 動物実験に関する情報公開

当該情報の公開場所 (URL) [http://www.daito.ac.jp/research/promotion/animal\\_experiment.html](http://www.daito.ac.jp/research/promotion/animal_experiment.html)

7. 特記事項

(動物実験に関連した、機関の特徴や特殊事情)

【新型コロナウイルス感染症対策について】新型コロナウイルス感染拡大を受け、2020年4月から2021年3月まで動物実験施設の使用を原則中止としていたが、2021年4月からは、新型コロナウイルス感染症への対応に必要な申し合わせ事項として、動物実験委員会として以下2点を新たに追加し、動物実験施設の使用が再開された。

①動物実験施設使用者が新型コロナウイルス感染症陽性と判定された場合もしくは濃厚接触者に特定された場合の対応

②大東文化大学動物実験施設利用の際の新型コロナウイルス感染症対策について

【機関および規程の策定について】本学では、大学院スポーツ・健康科学研究科設立時の2009年にスポーツ・健康科学部及びスポーツ・健康科学研究科動物実験指針、2013年にスポーツ・健康科学部及びスポーツ・健康科学研究科動物実験委員会規程及び動物実験施設飼養・保管マニュアル等の機関内規程を策定した。2009年度に大東文化大学スポーツ・健康科学部及び大学院スポーツ・健康科学研究科倫理審査委員会を設置し動物実験計画の審査を行っていたが、2013年度よりスポーツ・健康科学部及びスポーツ・健康科学研究科動物実験委員会と呼称を改め、年間0～5件の動物実験計画の審査、承認を実施してきた。2017年2月22日より、大学組織として動物実験委員会が設立され、新たな規程として大東文化大学動物実験規程が策定された。動物実験施設飼養・保管マニュアルについても大学組織としての運用に準じ2021年度3月に改訂を行った。2019年度より大学組織として研究推進室を設置し、動物実験委員会の運営は研究推進室が担うこととなった。

【自己点検】2016年度に、第三者評価として公私立大学実験動物施設協議会による1回目の外部検証を受け、指摘を受けた点について改善を行った。1回目の外部検証より6年が経過したため、2022年度に、公益社団法人日本実験動物学会による2回目の外部検証を行った。その結果、動物実験規程について見直しの必要を指摘され、2023年12月20日付けで動物実験規程を改正した。

【主な実験内容】スポーツ・健康科学部においては健康科学科の学部実習、卒研研究学部生及び学科教員の研究課題、スポーツ・健康科学研究科においては大学院生の修士論文の研究課題及び大学院指導教員の特別研究・科学研究費の研究課題において健康科学、栄養学およびスポーツ科学・スポーツ医学等の各分野の研究遂行のために動物実験が行われている。

【施設】本実験施設は大学間の共同研究でも利用され、地域連携や地域貢献でも利用可能である。大学院旧研究棟(旧3号館)から現在の新研究棟10号館4階の動物飼育室に平成24年度4月に移転した。

【その他】2012年度よりスポーツ・健康科学部及びスポーツ・健康科学研究科主催で実験動物慰霊式を年1回執り行うこととし、2017年度(第6回)より実験動物慰霊碑を用いて行っている。2024年度の実験動物慰霊式は、2024年10月15日に行われ、動物実験委員会構成員を含めた教職員および学部生、大学院生およそ40名が参列した。